

令和7年度 学校評価

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ わからない

(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		考察																																															
1 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進 学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に向けていると思いますか。 (感動・感謝、郷土愛、いのちを大切にすること、子どもの体力向上、基本的な生活習慣など)	2 自ら学びに向かう力を育む教育の推進 学校は、子どもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。	1について、すべての教職員が肯定的な回答をしており、学校の教育方針がしっかりと共有されていることがうかがえる。また、保護者・児童生徒からも高い評価を得ており、日々の道徳科での授業や豊かな心を育む取組、教科体育の充実など、学校での学びが広く認知され、支持されていることが確認できた。一部、否定的な意見もあるため、児童が自ら考えたり、運動したりする機会を増やしていきたい。 2については、児童・保護者・教職員のいずれからも概ね肯定的な評価が得られた結果から、自ら学びに向かう力を育む教育が一定程度推進されていると考えられる。保護者には、授業の様子や学びの過程が見えにくい面もあるため、今後は子どもの振り返りを充実させるとともに、学級通信等で児童が身につけた力を広く発信することが必要である。																																															
<table border="1"> <caption>Item 1: Rich heart and healthy body education</caption> <thead> <tr><th>Category</th><th>そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思わない</th><th>そう思わない</th><th>わからない</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>保護者</td><td>45%</td><td>55%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>児童生徒</td><td>55%</td><td>45%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>65%</td><td>35%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> </tbody> </table>	Category		そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	わからない	保護者	45%	55%	0%	0%	0%	児童生徒	55%	45%	0%	0%	0%	教職員	65%	35%	0%	0%	0%	<table border="1"> <caption>Item 2: Self-learning and initiative</caption> <thead> <tr><th>Category</th><th>そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思わない</th><th>そう思わない</th><th>わからない</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>保護者</td><td>40%</td><td>60%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>児童生徒</td><td>45%</td><td>55%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>35%</td><td>65%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> </tbody> </table>	Category	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	わからない	保護者	40%	60%	0%	0%	0%	児童生徒	45%	55%	0%	0%	0%	教職員	35%	65%	0%	0%
Category	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	わからない																																												
保護者	45%	55%	0%	0%	0%																																												
児童生徒	55%	45%	0%	0%	0%																																												
教職員	65%	35%	0%	0%	0%																																												
Category	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	わからない																																												
保護者	40%	60%	0%	0%	0%																																												
児童生徒	45%	55%	0%	0%	0%																																												
教職員	35%	65%	0%	0%	0%																																												
(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進																																																	
3 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進 学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりすることの育成に、取り組んでいると思いますか。(児童会・生徒会活動、学校のきまり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイスライ(中学校)など)		本校は、学校規模を活かした委員会活動や各種行事、縦割り班活動といった特別活動の充実を図っている。さらに本年度は代表委員会において、学校のきまりの見直しについて児童からの意見を吸い上げ、検討することを行った。これらのことから、教職員は、社会参画を促す教育が充実していると捉えていると考えられる。一方で児童生徒は「わからない」と回答する子どもが10%以上いた。子どもたちは比較対象がないため自分の学校の特色や魅力を感じにくい傾向がある。そのため、教職員が学校の取組の価値を伝え続ける必要があると考える。																																															
<table border="1"> <caption>Item 3: Social contribution</caption> <thead> <tr><th>Category</th><th>そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思わない</th><th>そう思わない</th><th>わからない</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>保護者</td><td>50%</td><td>50%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>児童生徒</td><td>45%</td><td>55%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>55%</td><td>45%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> </tbody> </table>	Category	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	わからない	保護者	50%	50%	0%	0%	0%	児童生徒	45%	55%	0%	0%	0%	教職員	55%	45%	0%	0%	0%																									
Category	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	わからない																																												
保護者	50%	50%	0%	0%	0%																																												
児童生徒	45%	55%	0%	0%	0%																																												
教職員	55%	45%	0%	0%	0%																																												
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進																																																	
4 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 学校は、子どもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。	学校は、子どもが、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業ができていますか。	子どもが選択できる授業づくりについて「そう思う」と回答した教職員が10%程度に留まる一方、児童の50%以上が「そう思う」と回答し、学びやすさを感じている。今後は児童の自己決定の場を授業の中で意識的に設定して、日々の教育活動にあたる必要があると考える。 対話のある授業に関しては児童、保護者、教職員と概ね同じような数値であった。これは、本校の研究テーマの柱を「対話」であることに加え、毎日の学校ホームページの更新や学校だよりで日々の学校生活や授業の様子について広報していたため、児童及び保護者にイメージが共有できた結果であると考えられる。児童生徒や保護者に「そう思わない」「思わない」という回答もあったため、今後も取組を継続していく必要がある。																																															
<table border="1"> <caption>Item 4: Individualized learning and collaborative learning</caption> <thead> <tr><th>Category</th><th>そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思わない</th><th>そう思わない</th><th>わからない</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>保護者</td><td>40%</td><td>60%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>児童生徒</td><td>55%</td><td>45%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>10%</td><td>90%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> </tbody> </table>	Category	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	わからない	保護者	40%	60%	0%	0%	0%	児童生徒	55%	45%	0%	0%	0%	教職員	10%	90%	0%	0%	0%	<table border="1"> <caption>Item 5: Dialogue-based learning</caption> <thead> <tr><th>Category</th><th>そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思わない</th><th>そう思わない</th><th>わからない</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>保護者</td><td>45%</td><td>55%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>児童生徒</td><td>50%</td><td>50%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>45%</td><td>55%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> </tbody> </table>	Category	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	わからない	保護者	45%	55%	0%	0%	0%	児童生徒	50%	50%	0%	0%	0%	教職員	45%	55%	0%	0%	0%
Category	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	わからない																																												
保護者	40%	60%	0%	0%	0%																																												
児童生徒	55%	45%	0%	0%	0%																																												
教職員	10%	90%	0%	0%	0%																																												
Category	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	わからない																																												
保護者	45%	55%	0%	0%	0%																																												
児童生徒	50%	50%	0%	0%	0%																																												
教職員	45%	55%	0%	0%	0%																																												
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進																																																	
6 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実 学校には、子どもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。	7 インクルーシブ教育の推進 学校では、子どもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。	6では、肯定的な意見を合わせると、教職員は100%に対し、保護者、児童とも90%程度である。また、「そう思う」と答えた保護者が50%、児童が60%である。概ね肯定的な意見が多い中ではあるが、支援がいき届いていないことも考えられる。一人ひとりの児童に目を向け、支援や助けが必要と感じていることを敏感に察知するよう常にアンテナを高く張っておく必要がある。 7では、肯定的な意見を合わせると、保護者と児童が85%程度、教職員が90%程度である。「そう思う」と答えた児童は保護者、教職員よりはるかに多い55%を超えている。否定的な意見や「わからない」も15%程度いて、お互いを尊重していると実感できるかが今後の課題といえる。																																															
<table border="1"> <caption>Item 6: Support for diverse needs</caption> <thead> <tr><th>Category</th><th>そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思わない</th><th>そう思わない</th><th>わからない</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>保護者</td><td>50%</td><td>50%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>児童生徒</td><td>60%</td><td>40%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> </tbody> </table>	Category	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	わからない	保護者	50%	50%	0%	0%	0%	児童生徒	60%	40%	0%	0%	0%	教職員	100%	0%	0%	0%	0%	<table border="1"> <caption>Item 7: Inclusive education</caption> <thead> <tr><th>Category</th><th>そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思う</th><th>どちらかといえば、そう思わない</th><th>そう思わない</th><th>わからない</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>保護者</td><td>45%</td><td>55%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>児童生徒</td><td>85%</td><td>15%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>90%</td><td>10%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> </tbody> </table>	Category	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	わからない	保護者	45%	55%	0%	0%	0%	児童生徒	85%	15%	0%	0%	0%	教職員	90%	10%	0%	0%	0%
Category	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	わからない																																												
保護者	50%	50%	0%	0%	0%																																												
児童生徒	60%	40%	0%	0%	0%																																												
教職員	100%	0%	0%	0%	0%																																												
Category	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	わからない																																												
保護者	45%	55%	0%	0%	0%																																												
児童生徒	85%	15%	0%	0%	0%																																												
教職員	90%	10%	0%	0%	0%																																												

(3) 最適な教育環境の整備		
8 安全・安心な学校・園づくりの推進	9 地域や家庭と連携した教育環境の整備	
学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。	学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。	8 について保護者は93%、児童は95%、教職員は100%が安全への取組は肯定的にとらえている。毎月の安全点検や避難訓練、登下校指導等による安全環境整備の進捗が評価されていると考える。安全対策協議会を年2回実施することで、地域連携を深化させ、より一層の安全教育の推進を図ってきたい。 9 の地域や家庭との協力体制に関しては、児童・保護者・教職員の3者とも9割以上が連携を高く評価しており、教育活動の連携は概ね定着していると評価できる。今後も地域人材を活用しての学習や家庭との情報共有を強化し、「地域とともにある学校」を実感できる仕組みを構築することで、教育環境の質をさらに高めていきたい。

(4) こどものいのちと権利の擁護		
10 こどもの最善の利益を守る環境づくり		
学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。		児童、保護者ともにこどもの意見がある程度尊重され、相談できる環境があるという結果である。児童においては校則（学校のきまり）の検討や運動会のスローガン決めなどで、自分たちの意見が反映された経験があるからと考えられる。教職員はそれ以上に肯定的に捉えている傾向が見られる。「そう思わない」児童が1割程度見られるので、きずなアンケートを継続して実施するだけでなく、担任との面談時間を設定する等、児童が「聞いてもらっている」と実感できる取組や相談しやすい雰囲気づくりを作っていくことを学校全体で共通理解・共通実践していくことが大切だと考える。

独自項目		
独自項目1	独自項目2	
こども達は、進んで学習に取り組んでいると思いますか（～たい、～したい）。	こども達は、友達と協力し合って、学校生活を送っていると思いますか（合い）。	
		自ら進んで学ぶ（～たい、したい）の意識調査において、児童・教職員が80%を超え一方で、保護者の理解を十分得ていない割合が20%という結果から、宿題や家庭学習において意欲的に取り組むように家庭と連携した取組を継続していき、主体的な学習が家庭でも感じられるような工夫を行っていく。 協力（合い）に関する意識調査では、3者とも肯定的意見が90%以上と学校教育目標が浸透していることが伺える。ただし「そう思う」という回答が70%を超える児童に対して、保護者・教職員の大人が「どちらかといえば、そう思う」とやや慎重な評価をしている。この意識の差を埋めることが今後の課題となる。

独自項目3		
独自項目3		
こども達は、相手の気持ちを考え、あたたかい言葉かけや行動をしていますか（愛）。		
		保護者・児童・教職員のいずれも「相手の気持ちを考え、あたたかい言葉かけや行動をしている（愛）」と答えた割合は高いものの、「どちらかといえば、そう思う」が多数を占めている。児童の肯定的回答が多いのは、日頃の道徳科の授業の充実や全校児童を巻き込んだ委員会の活動における思いやりの心を育てる取組の成果であると考えられる。今後も小規模校のメリットを活かしたたてわり班活動等を充実させ、心豊かな児童の育成に努めていく必要がある。

来年度の具体的な取組について

- 校内で設定した「身につけよう9つの力」を学級、個人で学期ごとの手立てをPDCAサイクルで行うことで、児童の自己肯定感・自己有用感の育成を図る。
- 令和8年度の閉校に向けて、地域とのつながりをより実感できる取組を行うことで、愛校心やふるさとを大切に思う気持ちを高める。
- 縦割り班活動をはじめとした異学年交流の時間を充実させ、他者とかかわる力の育成を高めることで、天明みらい学園への新しい環境に対応できる力を育てる。
- 体力テストの結果からの体系的な授業内容の見直しと個別の運動支援の充実や運動量の確保、全校での運動習慣の定着の取組による体力二極化の改善を図る。
- 校内研修だけでなく、全国教員研修プラットフォーム（Plant）を活用し、教師の授業力・指導力の向上及び児童一人ひとりへのきめ細やかな指導の徹底を図る。

小中学校関係者評価

- 授業ではこども達が自分の意見をしっかりと出すことができている。教師と児童の関係がうまくいっているからだと感じた。
- 地域と連携した学校の教育活動が、ホームページや学校だより等でしっかりと周知されている。
- 縦割り班や集団下校等の異学年活動や交流が活発であることから、上級生がよい手本となって、それがうまく下級生へ受け継がれている。
- 学校・家庭・地域が一体となり、教育のレベルを上げようとしていることが、学校の取組や本評価の結果からうかがえる。
- 総合的な学習の時間で地域について理解が深まっていることが、地域でのこども達の様子から感じられる。